

平成 25 年度年度計画の作成について

年度計画は、中期目標期間中の各事業年度の業務運営に関し、「中期計画」に定めた事項のうち当該年度において実施すべき事項等を記載できるよう努めた。

1 25 年度年度計画の内容に関しては、具体的な内容を記載できるよう努めた。

例：アートマネジメント科目の充実（No.1 1）

中 期 計 画	教育研究の成果を社会に発信し得る人材を育成するため、アートマネジメント科目について、キャリアマネジメントに関する授業を開講するなど、内容を多様化し、充実する。
24 年度年度計画	教育研究の成果を社会に発信し得る人材を育成するため、アートマネジメント科目に関する授業を開講できるよう検討する。
25 年度年度計画	演奏会開催などに向けた音楽経営論や演習の授業を通じてアートマネジメント教育を行う他、キャリアマネジメントに関する授業の開設を検討する。

例：学生の健康面のサポートの充実（No.3 7）

中 期 計 画	学生アンケートを踏まえ、カウンセリング環境を整備するなど、学生への健康面のサポートを充実する。
24 年度年度計画	学生アンケートを踏まえ、カウンセリング環境を整備するなど、学生への健康面のサポートを充実する。
25 年度年度計画	引き続き学生相談によるカウンセリングを実施する。健康調査から保健師と学生相談との連携を行う。身体検査の実施結果をまとめた年報を発行する。健康や心理面をサポートするため「保健室だより（仮称）」を発行する。

例：教育委員会及び小・中・高等学校との連携（No.5 6）

中 期 計 画	京都の文化芸術の裾野を広げるため、芸術系大学と京都市教育委員会において、芸術教育の充実と芸術を大切にする風土づくりをより一層アピールするとともに、教育委員会及び小・中・高等学校と連携し、芸術を志す人材の育成に向けた教育や講座等を開催する。
24 年度年度計画	京都の文化芸術の裾野を広げるため、芸術系大学と京都市教育委員会において、芸術教育の充実と芸術を大切にする風土づくりをより一層アピールするとともに、教育委員会及び小・中・高等学校と連携し、芸術を志す人材の育成に向けた教育や講座等を開催する。
25 年度年度計画	京都の文化芸術の裾野を広げるため、芸術系大学と京都市教育委員会において、芸術教育の充実と芸術を大切にする風土づくりをより一層アピールするとともに、「ギャラリー@KCUA（アクア）」での取組や卒業生や在校生が、空き教室で芸術作品を滞在制作し日常的に児童と交流を行う境谷小レジデンスの活動を通じて、教育委員会及び小・中・高等学校と連携し、芸術を志す人材の育成に向けた教育や講座等を開催する。

2 年度計画の積み重ねが中期計画の達成につながることから、年度進行による管理が出来るよう努めた。

例：学内情報インフラの充実（No.3 4）

中 期 計 画	教育研究及び学内コミュニケーションの充実ため、情報スペースなど、学内情報インフラをより一層充実し、学生、教職員が日常的に利用できる環境の整備(メディアサポートセンター(仮称)の設立など)に努める。
24 年度年度計画	教育研究及び学内コミュニケーションの充実ため、情報スペースなど、学内情報インフラを充実する。
25 年度年度計画	25 年度年度計画では、「メディアサポートセンター（仮称）の構想を策定する。」として、この構想に基づき 26 年度以降の年度計画を設定する。

3 「25 年度以降に実施のため年度計画なし」としていた 24 年度年度計画の項目については、原則として、25 年度年度計画を設定することとし、25 年度年度計画が設定できないものについては、その理由を明記した。

例：学外連携共同研究室・工房（仮称）の開設（No.5 9）

中 期 計 画	美術における学外連携を推進するために、学外の諸機関と共通テーマの研究のミーティングや出向者を受け入れて研究を行うためのスペースである「学外連携共同研究室」と学外の諸機関との共同制作を行うスペースであり、かつ、その成果の展示や保存機能を有する「学外連携工房」について、大学の市内中心部への移転後の開設を目指す。
24 年度年度計画	25 年度以降に実施のため年度計画なし
25 年度年度計画	移転整備構想を踏まえて検討するため、25 年度年度計画なし

例：知的財産の在り方の研究（No.6 6）

中 期 計 画	知的財産権の在り方や社会・市民への知的財産の提供の方策を研究する。
24 年度年度計画	25 年度以降に実施のため年度計画なし
25 年度年度計画	新入生オリエンテーションにおいて、学生に知的財産権について理解を深めるためのガイダンスを行うとともに知的財産権に係る規程整備等を検討する。

4 25 年度年度計画のうち特記すべき内容

(1) 美術修士課程における定員の増員等の充実（No.5）

中 期 計 画	公立大学としての京都芸大が持つ高等専門教育研究における中核的な役割を踏まえ、修士課程における定員の増員、専攻分野の見直し等を行う。
24 年度年度計画	修士課程における定員の増員の検討を行う。
25 年度年度計画	平成 26 年度修士課程入試から定員を増員することから、準備のため文部科学省への届出等の手続きを行い、募集を行う。また、本科留学生の定員や入学選考方法等についても検討を行う

(2) 研究費の確保・配分 (No.49)

中 期 計 画	多様なテーマでの教員の積極的な研究をより一層奨励するため、研究費、学長裁量による特別研究費及び在外研修費等を確保し、効果的に配分できるような枠組を構築する。
24 年度年度計画	多様なテーマでの教員の積極的な研究をより一層奨励するため、学長裁量による特別研究費を確保し、効果的に配分できるような枠組を構築する。
25 年度年度計画	多様なテーマでの教員の積極的な研究をより一層奨励するため、個人研究費の増額に向け取り組む。また、従来の全額公募方式から、学長裁量による特命研究経費と公募研究費の二種類に分けて配分する等、より効果的な枠組みを設定する。

(3) 京都芸大アーカイバルリサーチセンター（仮称）の設立 (No.60)

中 期 計 画	現在の学内の図書館・資料館、保存修復専攻、展示スペースの総合的な再編を視野に入れつつ、美術学部、音楽学部、日本伝統音楽研究センター、芸術資料館が持つコンテンツとノウハウを集約し、更に音楽図書、楽器コレクションを加えた「京都芸大アーカイバルリサーチセンター(仮称)」の構想を取りまとめ、設立を目指し、体系的な資料の保存と新たな芸術文化の創造と発信に取り組む。
24 年度年度計画	現在の学内の図書館・資料館、保存修復専攻、展示スペースの総合的な再編を視野に入れつつ、美術学部、音楽学部、日本伝統音楽研究センター、芸術資料館が持つコンテンツとノウハウを集約し、更に音楽図書、楽器コレクションを加えた「京都芸大アーカイバルリサーチセンター（仮称）」の早期設置に向け、方向性の明確化、具体的な事業の検討、学内意見のオーソライズ、市民等への周知方法などを検討するため、プロジェクトチームを設置する。
25 年度年度計画	準備委員会を設置して、外部の専門家を招くとともに26年度のセンター設立を目指して、9月末を目標にセンター構想をまとめる。

(4) 寄付金の募集 (No.88)

中 期 計 画	寄付金募集のための仕組みを整備し、積極的に募集活動を行う。
24 年度年度計画	寄付金募集のための仕組みを整備し、積極的に募集活動を行う。
25 年度年度計画	「京芸友の会」の活動等を通じて、積極的に募集活動を行う。